



1 明北小 『明北小祭り ～児童会交流委員会企画～』 11月27日（木）

『明北小祭り ～新しい提案があったとき～』 6学年だよりから

木曜日に行われた明北小祭り。全校児童がとても楽しみにしていた、交流委員の企画です。コロナ禍を経て、3年前に復活した明北小祭りですが、今年度、交流委員会の挑戦がありました。それは、これまで学年ごとだった出し物（お店）を、たてわり班ごとにしてみたことです。なぜなら、今年の明北小祭りの目的が「全校の仲を深めて、学校を盛り上げる」だからです。

その決定を受けて、班長である6年生は、1～5年生をうまくまとめられるのかな？ちゃんとお店ができるのかな？と不安でした。朝の「学びタイム」を2回使って、班ごとにどんな出し物をするのか、そのために必要なものは何か、などを話し合いました。すると、思っていたよりも、班の中でいろいろな意見が出たり、スムーズに決まったりした班が多く、なんだかいけそう、という雰囲気を感じました。子どもたちは、事前に「たてわり班ごとの出し物だから、準備の時間はあまり取れない」ということを確認しておきました。それなので、どの班も短時間の準備でできそうなものが多かったです。（準備に1時間、リハーサルに1時間）

最初の準備の時間が終わったところで子どもたちに聞いてみると、あと1時間で大丈夫そうだ、ということだったので、準備の時間を増やすことはしませんでした。

当日。どの班に行っても、みんな一生懸命にお店番をしていたり、たのしく遊んだりしていました。私もほぼすべての班の出し物をやってみましたが、ドキドキしたり、ワクワクしたりするものばかりで、とても楽しかったです。

「最後の明北小祭り」を終えた子どもたちも「楽しかった！」と言っていました。もう、その言葉が出ただけで十分な気もしますが、ここは6年生ということで、これからの明北小のことも考えます。来年度もおそらく行われるであろう明北小祭りがもっといいものになるように、振り返りもしました。

たてわり班で出し物をするということについては、多くの子が「意外とよかった」としていました。しかし、様々な面で大変だった班もあり、やはり学年ごとのほうがいいのでは、という意見もありました。今年度、交流委員会の決定を受け、班長である6年生を中心に挑戦した「たてわり班での出し物」。よさも難しさも両方あることを、子どもたちは身をもって知ることができました。これは、これからの子どもたちの活動にとって、さらに明北小学校にとっての大事な財産です。

新しい提案があったときに、デメリットばかりに目を向けて「やらない」という判断をするのではなく、デメリットもメリットも両方考えた上で「やってみよう」という判断をし、決定した子どもたち。その決定を受けて、「じゃあ、みんなでどうしたらできるのかを考えて、やってみよう」と子どもたちの伴走をする先生たち。こうやって、明北小がつくられています。

<縦割り班：出し物>



1 班



2 班



3 班



4 班



5 班



6 班



7 班



8 班

- 1 班…ギネス 55 (えんぴつ立て)
- 2 班…ボーリング&クイズ
- 3 班…わりばしおとし
- 4 班…しゃてき
- 5 班…クイズ&たからさがし
- 6 班…おばけやしき
- 7 班…アスレチック
- 8 班…クイズラリー&シュートゲーム

<全校かくれんぼ>



<オープニング:出し物紹介>



<フィナーレ:最終結果発表・感想発表>



かくれんぼ



出し物